

議席1番、山田正樹君。

〔1番 山田正樹君登壇〕

○1番(山田正樹君) 皆様、おはようございます。議席番号1番、山田正樹です。傍聴の皆様におかれましては、台風のほうは何とか免れましたが、早朝より不安定な天候の中、議会にお越しいただきまして、ありがとうございます。

初めに、先ほど木村議員のほうからもお話がありましたが、昨年の平成27年度第3回定例会中の9月9日に発生しました関東・東北豪雨から、あすで1年となります。ここに、改めてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

それでは、議長より発言の許可をいただきましたので、通告に従って、2項目、3点について一般質問を行わせていただきます。執行部におかれましては誠意のある答弁をお願いいたします。

まず、1項目め、境町親子ふれあい館についてお伺いいたします。近年、急速な少子高齢化の進行に伴い、労働力人口の減少や社会保障負担の増大など将来的に社会、経済への影響を与える懸念のある課題が深刻になっています。また、核家族化の進行、就労環境の変化など、子供と家庭を取り巻く環境が大きく変化しており、新しい子育て支援の仕組みを構築する必要があると考えられます。

平成24年8月に子ども・子育て関連3法が制定され、それに基づき、平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が開始されました。当町でも、これに合わせてさまざまな取り組みを行っているところと思います。その中で、子育て支援事業の一環として、「乳幼児期の遊び場」「コミュニティーの場」として、平成24年4月に開館し、4年半近くが経過しているが、利用状況と現況についてお伺いいたします。

次に、2項目めの国際交流についてお伺いいたします。経済を初めとするグローバル化の波は、国家の枠組みを超えて、都市間競争の激化、地球規模の環境問題、システム、制度世界的標準化など、さまざまな形で直接影響を及ぼすようになってきていると考えられます。町民、企業、行政といった各主体は、いや応なくこうしたグローバル化社会の中で活動していかなければならないと思います。グローバルな観点からの町民の意識、企業の競争、行政の対応力がますます問われるようになってきていると考えられるので、このような状況の中、今後も町が発展していくためには、町民、企業、行政が意識を高め、生活、文化、経済、教育など、あらゆる面でグローバル化に対応したまちづくりを進めていく必要があると思います。

2項目めの1点目の当町における国際交流の取り組みについてお伺いいたします。

次に、2項目め、2点目の境町ホストタウン推進協議会についてですが、6月にホストタウンとして登録され、推進協議会が立ち上がったばかりとは思いますが、現在の進捗状況等をお伺いいたします。

以上、2項目、3点の1回目の質問を終わります。

○議長(倉持 功君) 最初に、境町親子ふれあい館についての質問に対する答弁を求めま

す。

子ども未来課長。

〔子ども未来課長 野口和久君登壇〕

○子ども未来課長（野口和久君） 改めまして、おはようございます。それでは、私から山田議員の1項目め、境町親子ふれあい館についての平成24年度の子育て支援事業の一環として「乳幼児期の遊び場」「コミュニティーの場」として、平成24年4月に開館し、4年半近くが経過したが、利用状況等現況はとのご質問にお答えをさせていただきます。

親子ふれあい館キッズハウスさかいは、ウエルシア関東株式会社、当時の代表取締役会長でありました鈴木孝之氏の生まれ育ったふるさと境町の発展に貢献したいという思いから、町に寄贈されました子育て支援施設でございます。平成24年に開館以来、延べ4万8,770人のお子さんと保護者の皆様にご利用をいただいております。親子ふれあい館は、ゼロ歳から3歳未満児の乳幼児と保護者が一緒に遊び、親子のふれあいを大切にさせていただく場所として、また子育てで悩んでいる保護者同士のコミュニティーの場所として、お子さんや保護者の皆さんが相互に交流できる施設として運営をいたしております。

なお、この施設では、利用者を対象といたしまして、境町子守歌グループひばりによります子守歌や手遊び歌、朗読ボランティアすばるによります紙芝居、また有限会社モーハウスとの子育て支援に関する協定により実施しております子育て支援サポート事業として、妊婦や子育て中の母親を対象とした各種講座を開催するなど、遊び場、コミュニティーの場以外としても活用をさせていただいているところでございます。

今後もこの施設の有効活用を図りながら、安心して子育てができる環境を整備してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

山田正樹君。

○1番（山田正樹君） ただいまの答弁の中で、利用者数が延べ4万8,770人とありますが、正直言ってかなり多いなと感じたところでもあります。4万8,770人というと、4年半ですと、年間の稼働が300日としても平均大体1日36人というと、親子で使ったとしても18組の利用があるというふうに考えられますが、私も今回質問に当たり、実際にキッズハウスさかいのほうも見に行かせていただきました。そこで、実際に使っているママさん、利用者の方々にいろいろお話を伺いましたので、細かいことはいろいろとあるとは思いますが、ここでちょっと主なものを発表したいと思います。

まず、1つ目は、あの施設の中で子育て相談等気軽に相談できる人が常駐しているとよい。例えば保育士さんとか元保育士さんとかですね。

2つ目は、利用対象者が3歳未満で、兄弟の場合は上の子が未就学児までと今は決まっておりますが、例えば下の子が3歳未満なら上の子の上限をなくしてほしいという話も聞きました。例えば例として、上の子が小学校1年生に上がってしまった場合は、下の子が3歳でも上の子は家に置いていかなければならないのかとか、そういう状況になるのかという

ことで、その辺も改善してほしいという話を伺いました。

次に、3つ目は、せっかく町内の町の中にあるので、大変便利な場所にあるので、1時間幾らとかというような有料みたいな形で、一時預かりというのも検討していただきたいというのもお伺いいたしております。

最後に4つ目なのですが、現在お菓子とか飲み物は決められた場所で食べられるようですが、お弁当はだめというふうに決まりがあるらしいのですが、実際お母さんたちとかお子さんが利用するときに、午前中から行った場合に、お昼があそこで食べられないと、一回家に帰らなければならないとか、ママ友同士の交流もお弁当を食べながらしたいとか、そういうようなお話を伺っております。中ではなくて外でも食べられるように、外の芝生のあるところでも食べられるようにしていただければというようなお話を伺いました。

以上について、お考えというかお聞きしたいと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの質問に対する答弁を求めます。

町長，橋本正裕君。

[町長 橋本正裕君登壇]

○町長（橋本正裕君） それでは、山田議員さんの再質問にお答えをしますが、行ったのは境町だけなのですか。

○1番（山田正樹君） あと古河のほうです。

○町長（橋本正裕君） 古河のヤンチャ森ですか。

○1番（山田正樹君） はい。

○町長（橋本正裕君） やはり古河の今度西口の駅前にできた施設、あちらは非常によくできておまして、託児所もあるし、それから年齢も分けて預かれると。ゼロ、3歳児と3歳以上とか、そういった形になっているので、それをやはり今キッズハウスさかいでぱっとやれるかと言われると、面積的には難しいのと、もう一つは様々な規約がありますので、それもクリアしなくてはならないというのがありますので、一番のまず保育士、元保育士については、全国的に今言われているように、保育士さんの不足とかもありますし、うちの保育所自体も臨時職員が8割以上ということで、そういったところも本当はもう改善をしなくてはならないところなので、抜本的に考えてしっかりとした計画を立てていかないと、ここで「そうですね、保育士いいですね」、誰もがいいと思うのです。保育士さんを雇って、あそこに置いていたらです。だけれども、それがすぐできるかと言われると、例えば保育士さんを1人雇い、そしてあその施設を改善するだけでも年間何千万とかかりますので、やはりしっかりとした計画を立ててやらなくてはならないのではないのかなというふうに感じます。

そして、2番目の年齢です。山田議員もお子さんがいてわかるとおり、お母さんの都合はわかります、ゼロ、3歳児と小学生と一緒にいたいという気持ちは。だけれども、本当にゼロ、2歳児の子たちが、そういう大きい子と一緒にいて恐怖を感じないかとか。そういったことを感じたときに、例えば春日部のイオンでもそうですし、横浜の新しくできた施設もそ

うですけれども、年齢でちゃんと分けるようになっていきます。ですから、1カ所で預かるとすれば、あの場所でやるのがいいとすれば、あそこにほかに施設をつくるしか、ほかに増加分でつくるしかならないのではないのかなというふうに思いますし、もしくは今昼間はふれあいの里幼稚園が、午後からは学童になりますけれども、昼間あいている時間帯を利用して、そちらにちょっと、両方部屋を分けてやれるような仕組みをつくるか、そういったことを検討することが重要なのではないかなと思いますので、本当にその辺。

あと託児です。託児は、本当に山田議員さんがおっしゃるとおりで、預けるところがないし、シッターサービスとかもないというのが現状でありますので、今やはり駅があるところ、古河駅とか守谷駅とか、そういったところはそういうサービスがあるのですけれども、そして来ていただけるのですけれども、境まで来るとなると、やはり来られないというような仕組みもありますので、全般ですよ。1, 2, 3については全般についてどういう方向性を持って町がやっていくか、重要な課題でありますので、もう少しお時間をいただきたいというふうに思います。

そして、4番目、食事です。これはちょっとどういうふうに、食事はあそこで……

〔「今はおやつと飲み物だけなんです」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） とるとあれですか、衛生上……

〔「それもありますし、前に一時期食事とれたときもあったんですけど、周りの子が食べたくなくなっちゃうんです」と言う者あり〕

○町長（橋本正裕君） そうだよ。今ここで会話して申しわけございませんでしたけれども、議長済みませんでした。

食事をしていた時期に、食べられない子たちもいるので、何か逆に食事をできる場を、どうするのか、提供するのか、もしくはもうちょっと抜本的に、多分病後児保育とか、そういったものまで欲しいという要望は多分されるのかなと思いますので、していきたいと思っていますし、やらなければならない課題だというふうには思っていますので、山田議員さんの質問には答弁が歯切れが悪いですが、しっかりと計画をして、練って、議会の皆さんとともに何らかの政策は打っていきたいというふうには思っておりますので、ご理解をいただければなというふうに思っております。

さらには、本当に古河市のほうでいい施設が随分、お金をかけていろんなことをやっているものですから、古河市も7月は日野の関係もあったのでしようけれども、150人以上人口が増加したという報告でありました。

町政報告でも、境町も7月は23人ふえたという話をさせていただきました。実は内訳を見ると、13人は社会増です。要は引っ越してきた人とか、それが社会増、13人です。ところが、10名は自然増であります。ですから、子供を産んでいただいた方がそれだけふえたというのが7月の、タイミングがあるとは思いますが、10人ふえたということでありまして、8月も11人ふえておりますので、こういった子育て政策もきっちりやっていくことによって、人口増加にもつながっていくというふうには思っておりますので、もう少々お時間をい

ただければと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思ます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

山田正樹君。

○1番（山田正樹君） ありがとうございます。先ほどちょっと順番が逆になってしまったかもしれないのですが、私も実際古河に7月にリニューアルオープンした駅前ヤンチャ森というところですかね、実際見に行くと、本当にこちらでは館内に大きなボールプールがあったり、またここでは遊具もたくさん充実していて、また一時預かり、子育て支援センター、送迎保育ステーションと、1つの館内で4つの事業を展開していて、本当に1つで総合の施設になっているというのがこの特徴でありまして、その後実際キッズのほうも見たのですが、やっぱりそれを全部やるには、あそこでは広さもちょうと、スペース的にも無理があるのかなということで、先ほどの町長の答弁にもありましたけれども、抜本的な改革とかが必要になってくると思ますので、今後例えば増設をするとか、別なところにもうちょっと大きな、総合型の施設を立てるとか、本当に今すぐできる話ではないとは思うのですが、ぜひ町のほうでも、議会のほうでも勉強していきますので、町のほうでもご検討していただければと思まして、この質問は終わりにいたします。

○議長（倉持 功君） それでは、これで境町親子ふれあい館についての質問を終わります。

次に、国際交流についての質問に対する答弁を求めます。

最初に、人権・協働ハーモニー課長。

〔人権・協働ハーモニー課長 長谷川 稔君登壇〕

○人権・協働ハーモニー課長（長谷川 稔君） 皆さん、おはようございます。それでは、山田議員さんの2項目め、国際交流についての1点目、当町における取り組みはとご質問にお答えいたします。

町では、本年4月に人権・協働ハーモニー課を立ち上げ、その中に国際交流係を設け、教育、文化、スポーツなど幅広い分野での国際交流を目標に事業を推進しているところでございます。また、平成27年度から茨城県国際課に職員1名を派遣し、国際交流のさまざまなノウハウを学ばせております。

現在実施している主な国際事業としては、長田小学校児童のアルゼンチン派遣事業や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるアルゼンチンの事前キャンプ地誘致があります。また、境町特産のさしま茶については、本年5月に行われましたG7茨城つくば科学技術大臣会合において手もみ茶を振る舞い、さらには西アフリカ、ニジェール共和国へ8月から輸出を開始したところでございます。そのほか境町ホームページでは多言語化、8カ国語になりますが、を実施しており、当町に暮らす外国人に対して、イベントや暮らしの情報を多言語で紹介をしております。

今後は、困ったときに相談に乗るなど、暮らしやすい環境づくりにも取り組んでいきたいと考えております。今後ともさらに積極的に国際交流事業に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（倉持 功君） 続きまして、理事兼企画経営課長。

〔理事兼企画経営課長 島根行雄君登壇〕

○理事兼企画経営課長（島根行雄君） 改めまして、おはようございます。それでは、私から、山田議員の2項目め、国際交流についての2点目、境町ホストタウン推進協議会の現況についてとのご質問にお答えをいたします。

境町ホストタウン推進協議会につきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることから、本町にアルゼンチン共和国選手団の事前キャンプを誘致し、もって人的、経済的、文化的な相互交流を図ることを目的に設置したものでございます。また、推進協議会につきましては、各種団体の代表をもって組織をされているところでございます。これまでに推進協議会を2回ほど開催し、ホストタウン登録の概要や今後のスケジュールなどについて協議を行ったところでございます。

今後は、ホストタウン交流計画に沿ったさまざまな事業を展開することにより、町のオリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致の機運醸成を諮ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

山田正樹君。

○1番（山田正樹君） ただいまの2項目めの1点目の答弁なのですが、町長の町政報告などでもあったように、長田小のアルゼンチン共和国の交流や派遣事業、またキャンプ地の事前の誘致、またさしま茶のニジェール共和国への輸出などさまざまな取り組みをやっていることはよくわかりました。

私のほうでも、他の市町村なんかの取り組みなんかを調べてみたのですが、市町村というか、近いところつくば市のほうに、JICAつくば独立行政法人国際協力機構つくば国際センターという、通称JICAつくばというのがあるのですが、ここではさまざまな国際交流事業を行っておりまして、また小中高校生を対象とした国際協力出前講座なんかもやっております。つくばといっても、このたびの圏央道が開通されればもっと身近に利用できると思いますので、ぜひ町としても、つくば市とタイアップして子供たちを育てるために検討してもらいたいと思いますが、この辺についてはお考えはどうでしょうか。

○議長（倉持 功君） 教育長。

○教育長（増田雅一君） 山田議員のご質問にお答えをいたします。

JICAにつきましては、先般町長のほうも所長さんなんかと懇談をして、その後私もJICAのほうを訪問させていただいたところです。非常に静かな場所にあつて、館内敷地内には外国の方が多数いらっしゃって、ここが日本かというように思ったところがありまして、JICAさんのほうでも非常にさまざまな出前講座、それからランチミーティングとかおっしゃっていましたが、さまざまな形でいろいろなプログラムがあるようでございますので、今度校長会などでも一度視察に行こうかなというふうを考えて、ひいては子供

たちのために、JICAのほうからも境町に来てもらったりすることによりまして、子供たちの国際感覚、国際交流に対する意識が醸成するのではないかなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

山田正樹君。

○1番（山田正樹君） ありがとうございます。

先ほども申し上げたのですけれども、圏央道ができると、つくば市とも本当に10分とか15分で行けるような、本当にもっと身近になると思いますので、今後こういった交流をどんどん町のほうでもタイアップしていただいて、やっていただければということをお願い申し上げます。これは以上で終わります。

○議長（倉持 功君） 2項目めについて、再質問はございますか。

山田正樹君。

○1番（山田正樹君） 済みません、では次に2項目、2点目なのですが、実際に2回開催し協議をしているというところですが、事前キャンプ地誘致に向けて鋭意努力されているところと伺います。私も以前、全協や戦略会議などに出たときに、この話を聞いて、実現できたら本当にいいと思いましたが、議会も、私たちが協力して、実現できるように頑張っていきたいと考えているところであります。

やっぱりオリンピックというのも、テレビで応援するのもいいのですけれども、それだけでなく、境町にキャンプ地として誘致とかできれば、町全体で応援することができることにもなると思いますし、またこの大会が終わった後のレガシーというのですか、遺産というか、オリンピックレガシーみたいなどころでも大いに期待できると思いますので、本当にこれが実現できることを心から望んでおります。

そして、再質問の中なのですが、この協議会のほう、私で委員さんのほうにお聞きしたところ、今現在31の各種団体の皆様が委員となっておりますが、この中で私のほうでぜひ委員になってほしいという方がいるので、提案したいのですが、境町の中に国際交流友の会さかいという民間国際交流団体の方々がおられますが、この方々は境町内外の外国人向けに、生活支援の一部として日本語教室なんかを行っている団体ですので、今回の推進委員に適していると思いますが、この辺はどうお考えになっているかお願いいたします。

○議長（倉持 功君） 山田正樹君の質問に対する答弁を求めます。

町長、橋本正裕。

○町長（橋本正裕君） それでは、山田議員さんのご質問にお答えをします。

本当に議会の皆様方にもご理解をいただいて、ホストタウンの登録に手を挙げて登録をされたわけでありましてけれども、本当に時間がない中、何とか全協を開いていただいてやったものですから、基本的にはこの協議会の構成メンバーは、坂東市さんから、こういうメンバーでやるのですよというのをいただいていたものですから、ちょうど肥後さん率いる国際交流友の会さかい、あちらが入っていなかったということをお先般、僕もご指摘をいただい

たとおり、気づきをさせていただきましたので、相手があることなので、相手に受けてもらえないとあれなのですけれども、町のほうから肥後さんのほうにご連絡をして、入ってもらえるかお聞きをしたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただきたいと思いません。

それと、先ほどこの前の質問でありましたけれども、JICAにつきましても、境一中のほうで出前教室をやるように申請をしたいというような話もしておりましたので、多分今年度、来年にかけてやられるのではないのかなということと、報告ではありますけれども、このホストタウンの中でトランポリンの競技、こちらを境町で行うという、これはアルゼンチンの競技という意味ではないです。オリンピック選手と町の人たちが触れ合うイベントということでトランポリンを……いつやるのでしたっけ。

〔11月の19日です〕という者あり〕

○町長（橋本正裕君） 11月19日に予定をしておりますので、議会の皆様方も参加をよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後になりますけれども、JICAからは、アルゼンチンのホストタウンに対しても、アルゼンチンに派遣したJICAの隊員がいるのです。茨城出身の隊員もいますし、全国にもアルゼンチンに派遣をした隊員がいると。その活用についてもご協議をいただけると。要は協力していただけるという話をいただいておりますので、早い段階でそういったJICAでアルゼンチンに派遣をして、行っていた、そういった方々をこの町のホストタウンの中にも入れていければなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひを申し上げます。

○議長（倉持 功君） 答弁に対する質問はございますか。

山田正樹君。

○1番（山田正樹君） ありがとうございます。ぜひともよろしくお願ひ申し上げまして、これで質問を終わりにいたします。

○議長（倉持 功君） これで山田正樹君の一般質問を終わります。